

2024-2025年度国際ロータリーのテーマ



2024-2025年度国際ロータリー第2690地区のスローガン

未来への架け橋をつくらう

2024-2025年度岡山北ロータリークラブのスローガン

仲間との経験を増やそう

2024~2025年度 Rotary Club of Okayama North

Rotary 週報

国際ロータリー第2690地区第10グループ
岡山北ロータリークラブ

事務所 / 〒700-0901 岡山市北区本町6-36 第一セントラルビル6階西F号室
TEL.(086) 222-9590 FAX.(086) 224-4288
E-mail : okayamakita@ok6rc.jp
http://okayama-kita-rc.jp/

例会場 / 岡山市北区駅元町1-5 ホテルグランヴィア岡山
例会日 / 毎火曜日 12:30~13:30

理事・役員

2024.7~2025.6

会長(理事) 高橋 茂樹
副会長(理事) 橋田 歳行
幹事(理事) 牧本 太郎
副幹事 堀川 子郎
会計 安原 則人
S.A.A.(理事) 田吉 雅人
副S.A.A. 難波 穂佳

会員増強・退会防止(理事) 中 山 賢太郎
広報(理事) 宮 井 宏
奉仕プロジェクト(理事) 永 山 雅幸
ロータリー財団(理事) 馬 場 幸宏
親睦活動 正 保 三倫
プログラム 廣 野 景達
直前会長 岸 本 浩
次期会長 高 島

モバイルサイトへのアクセスはQRコードをご利用ください。(岡山北RCホームページ)



きょうのプログラム

「ガバナー補佐訪問クラブ協議会」

次回9月3日のプログラム

「令和時代に対応したIT環境の見直しを。私にお手伝いさせていただきます！」

株式会社ベータ 代表 坪井 翔 会員

9月のお祝い行事

会員誕生日：磯島(芳)、宮井、三宅、内座、角南、山本(武)君
結婚記念日：馬場、山本(和)君、山本(宣)君

前回8月20日の例会記録

出席の状況

会員数 52名 (出席免除者0名)
出席者数 35名
欠席者数 17名
出席率 67.31%

ゲスト

岡山経済同友会 代表幹事 梶谷 俊介 様
米山奨学生 チョウン ヒエン ヴーン 様
高橋会長同期幹事の皆様は3頁掲載

スケジュール

9月 基本的教育と識字率向上・ロータリーの友月間

3日(火) 12:30~例会
13:40~第3回理事役員会
7(土)~8(日) 岡山北RC旗杯ミニバスケットボール大会
10日(火) 18:30~観月夜間例会 (夫人同伴)
17日(火) 例会取消し (定款第7条第1節)
24日(火) 12:30~例会:クラブフォーラム(会員増強)

10月 地域社会の経済発展月間・米山月間

1日(火) 12:30~例会
13:40~第4回理事役員会
5(土)~6(日) 地区大会
8日(火) 11:00~ 会長・幹事懇談会
12:30~ 地区ガバナー公式訪問例会
15日(火) 例会取消し (定款第7条第1節)
22日(火) 12:30~例会
29日(火) 12:30~例会
13:40~指名委員会

本日のメニュー：ミリオンダラーミール (和食)

次回のメニュー：ミリオンダラーミール (洋食)

会長挨拶



まずは、今月6日の会場移動納涼ビア例会には多くのメンバーの皆さんに参加いただき、親睦活動委員会の皆さんにも大変お世話になりました。ありがとうございます。夜間例会、例会取消等で7月23日以来ほぼ1ヶ月ぶりの昼例会になります。また外部の方をお呼びしての卓話も今期初になります。梶谷先輩、宜しくお願いします。

今日は、私の同期幹事12名が訪問してくれました。同期幹事は、6RCの幹事は毎月、16RCも2ヶ月に1度は今でも顔合わせています。ものすごく仲が良い訳ではないのですが、良い距離感で付き合う事の出来る素敵な仲間だと感じています。

私は車の移動時、FMラジオを聞いているのですが、ここにいる皆さんは全員が昭和生まれだと思います。今年、昭和でいうと昭和99年になるそうで、来年は100年か？と何ともいえない感情が湧いてきました。

ここからは報告ですが、

7月24日水曜日に、岡山RCさんに牧本幹事と訪問してきました。

7月31日水曜日の夕方、堀川副幹事、牧本幹事と私で、中山さんの最終出勤で花束を渡してお別れをしてきました。

8月5日月曜日に、岡山北西RCさんに牧本幹事と訪問させていただきました。

来週は、ガバナー補佐公式訪問クラブ協議会になります。多くの皆さんの例会参加をお願い致します。

幹事報告

1. ガバナー補佐訪問クラブ協議会につきまして、ご案内を配信しておりますので、ご出席くださいようお願いいたします。この時にクラブ活動・運営計画報告書をお持ちくださいよろしくお願いいたします。
2. ポリオプラスソサエティの案内を回覧します。
3. 財団室NEWS 8月号、コーディネーターNEWS 8月号、ハイライトよねやま vol.293、他クラブ週報を回覧いたします。



幹事報告

S.A.A.

廣野君：梶谷様 本日はご多忙のところ、第1回目の卓話講師として、大変ご無理を申し上げました。感謝です。よろしくお願いいたします。

鴻上君：梶谷さん、本日は当クラブにご来訪頂きありがとうございます。卓話を楽しみにしております。

岸本君：梶谷様、本日はお越し頂きありがとうございます。
高橋会長同期幹事の皆さまご来訪歓迎いたします。

高橋君：本日も宜しくお願い致します。

平野君：先日の夜間例会でのビール飲み比べではお世話になりました。
又、結婚記念日の花束をありがとうございます。
本日は梶谷先輩宜しくお願いします。

山本(和)君：誕生日のお祝い有難うございました。

中山君：梶谷様、本日は卓話にお越しいただきありがとうございます。
8月は会員増強・新クラブ結成推進月間となっております。ぜひとも多くのご紹介をよろしくお願いいたします。

16RC同期幹事の皆様のご来訪に感謝申し上げます。

永山君：うらじゃまつり初日夜に頑張りすぎて（飲み過ぎて）財布と携帯をなくすというチョンボをしてしまいました。財布は居酒屋から、電話も昨日飲み屋で無事発見されました。
梶谷先輩、本日はありがとうございます。

三宅君：梶谷様のご来訪感謝致します。

渡辺君：岡山経済同友会梶谷様、いつもお世話になっております。卓話楽しみにしております。

宮井君：梶谷様の卓話を楽しみにしております。
高橋会長16RC同期幹事の皆さまのご来訪を歓迎いたします。
杉山さん、先週の夜間例会では週報用写真の撮影ありがとうございます。

伊藤君：梶谷様の卓話に感謝します。

谷本君：梶谷さんの卓話に感謝申し上げます。

磯島君：梶谷様の卓話に感謝します。

吉田君：16RC幹事会の皆様、ようこそお越し下さいました。



出席報告



スマイル報告



県南16RC同期幹事集合写真



岡山岡南RC山下様代表挨拶

岡山RC	工藤恒一郎様	岡山備南RC	高旗博文様
岡山西RC	道廣司様	岡山中央RC	森川敦詞様
玉野RC	小林弘幸様	岡山後楽園RC	犬養吉晴様
岡山東RC	松本崇様	岡山丸の内RC	江見匡史様
岡山西南RC	田中英樹様	岡山旭川RC	中川雄二様
備前RC	石原伊知郎様	岡山岡南RC	山下孝暁様

委員会・活動報告



岸本ロータリー情報委員長より、8月27日に開催の第1回IDMのお知らせ

卓話

「地域活性化の取り組み」

岡山経済同友会 代表幹事 梶谷俊介様
(岡山RC 岡山トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長)



廣野プログラム委員長から卓話の要請があり、久しぶりに岡山北ロータリークラブの例会に参加させていただくことになりました。私たちが青年会議所の現役の時に「うらじゃ」がスタートしました。岡山商工会議所青年部でもご一緒させていただき、廣野さんが会長の時に四国アイランドリーグの公式戦を誘致したことからスタートした「スポーツと地域振興の関係を考える取り組み」は、毎年ソフト・野球教室を開催している「NPOチーム岡山スポーツクラブ県民後援会」と

毎月1回定例会を開催する「岡山スポーツプロモーション(SPOC)研究会」に発展しています。研究会では様々なスポーツと地域との関わりについて、提案や意見交換を行うことで、様々なコラボレーションも起きています。今年の10月には10周年を記念し、シンポジウムも開催する予定です。関心がありましたら一度覗いてください。



岡山スポーツプロモーション(SPOC)研究会

岡山青年会議所、岡山商工会議所青年部に入会して、地域と関わる様々な取り組みをしたことから、岡山商工会議所、岡山経済同友会等でも様々な役を経験させていただきました。これらの経験を通して、企業が地域に関わることの重要性にも気づきました。青年会議所での出会いから、共に地域に関わることができる仲間が今もいることは大変ありがたいことです。一人ではとても不可能と思われることでも、自らが働きかけることで、地域が変わる体験をしたことは今も大きなバックボーンになっています。

また、10数年前に県の教育委員を拝命して、学校教育にも関わるようになり、学校教育に企業が大きな影響を与えているとも感じました。

【持続可能な地域社会に不可欠なこと】

今日のテーマは地域振興についてですが、「人口減少が急速に進む日本において、大きな課題は人口減少社会の中でいかに持続可能な地域社会をつくっていくか」です。特に社会減が加速することは地域の持続性を損ないます。持続可能な地域社会、地域の発展には、そこで暮らす人間と事業者がカギを握ります。代々その地域で暮らす覚悟を決めた人が世代をつないで住み続け、産業を維持することが不可欠です。それは行政任せではなく、そこで暮らし、生業をしている人々の自立した力が欠かせません。一人ひとりが地域に何らかの貢献をすることが第一歩です。

ある高校生から聞いた言葉が忘れられません。その子は「私にとって一番身近なのは東京です」と言いました。そして「2番目が世界です、地元が一番縁がありません」と言ったのです。一瞬、耳を疑いましたが、これが子どもたちの現実です。学校と家の往復をしている子どもたちには地元のリアルな情報はほとんど入りません。彼らに届くのは東京発の情報が主体です。つまり、彼らにとっては東京が一番身近になるのです。現在はインターネットによりバーチャルの情報がどんどん入り、地域でのリアルな付き合いから得られる情報が入りにくくなっていますが、これでは地域が疎遠になるのも無理はありません。いかに子どもたちに地域のリアルな情報に接してもらい、社会に主体的に関わる経験をしてもらうかが重要だと感じました。地域のコミュニティが崩壊していることが子どもたちからリアルな体験をする機会を奪っているともいえます。

地域が活性化する根幹は、世代を超えて地域で活動する人がいるかどうかです。持続可能な地域にするためにはそこで生まれ育った子どもたちが、その地域をより良くするために貢献したいと思うか、それとも見切りをつけて出ていくかで変わります。子どもたちが残るためには大人が地域を愛し、行動しているかどうか問われます。

つまり、そこで生まれ育った人たちが、自分たちの地域は自分たちでより良い地域にするという意志が必要です。自らが主体者として地域に関わり、地域にコミットすることで一度は外に出ても、地域の発展に力を貸してくれる存在になります。地域にコミットする人をどのように地域で育てていくのが、いま問われています。当然、大人の地域に対する覚悟が必要です。

また、持続可能であるためには、人間の生存環境が維持されていることが欠かせません。生存環境としての自然、生存関係としてのコミュニティ、そして、生存環境としての経済的基盤が必要です。つまり、環境、社会、経済のバランスを取った持続可能な発展目標としてのSDGsにつながります。

【岡山経済同友会のテーマ（SDGs・大学コンソーシアム）】

岡山経済同友会では私の3代前の松田正己代表幹事から継続してSDGsを大きなテーマに据えて活動をしてきました。最初はSDGsの勉強・理解活動から始まり、現在では事業の柱にSDGsを位置づけて経営する企業も増えています。また、おかやまSDGsアワード、おかやまSDGsフェアを行政や大学と協働して開催し、様々なSDGsの取り組みを紹介すると同時にネットワークをつくることを行ってきました。私はSDGsの本質はすべての人の人権が尊重される社会の構築が目標と理解しました。

ゴールが17ありますが、根幹は平和とパートナーシップです。そして、DX、GXをはじめ技術革新が進めば進むほど人間とは何か、社会とは何か、幸せの本質を突き詰めたイノベーションが必要になるとの思いから「SDGsと人間の幸せ」を岡山経済同友会のメインテーマに掲げました。SDGsアワードは今年が5回目ですが、ある程度役割を果たしたので今回を最終回とすることになりました。現在最後の募集中です。SDGsフェアは昨年からはじめ、SDGsの取り組みを一堂に集めて、ステージ発表やブース展示、ワークショップを行います。企業や行政、学生や生徒の発表やブースがあり、学びと交流の場になっています。今年は会場の都合で縮小しましたが大阪関西万博と連携して、「子どもたちと学ぶ、私たちの未来」をテーマに開催し、県外からの高校生も交えたワークショップ等も行いました。SDGsフェアについては来年以降も継続する予定です。

私自身が最も取り組みたいと思い、働きかけているのが、**大学コンソーシアム岡山の機能強化**です。大学コンソーシアム岡山は岡山経済同友会が県内の大学に働きかけ、2006年に組織化されて、まもなく20年を迎えようとしています。今一つ広がりには欠けていると感じています。産官学が会員になれる規約を持っており、産官学で地域課題を解決するプラットフォームに育てていきたいと思っています。なぜなら、現在の地域課題は行政や経済界、大学や市民団体がばらばらで対処したのでは解決せず、真の連携、協働が必要だと感じているからです。しかし、それぞれに異なる文化を持ちコミュニケーションをとることは難しいのが現状です。課題は多いですが、持ち味を生かし合い協働して地域課題に取り組む土壌ができれば地域創生の大きな力になります。なぜなら、大学には知のエキスパートである多様な研究者と同時に次世代の中心になる若者が学生として集っており、子どもたちと大人の世代をつなぐ力を持ち、過去と未来をつなぐことも可能だと思っています。また、大学は中立の立場として、行政や産業界、市民をつなぐことも可能だと思っています。一方で人口減少の中で大学も様々な課題を抱えています。大学の知を地域がいかに活用して、地域の発展に活用するか、大学の課題は大学だけの課題ではなく、地域全体の課題であり、資産だと感じています。大学コンソーシアム岡山を地域課題解決のプラットフォームとして機能させることができれば地域にとっても産業界にとっても、大学にとってもウィンウィンの関係となり、持続可能な地域づくりの原動力になると考えています。

【地域活性化の根幹となりうる社会に開かれた教育課程】

先ほども申しましたが、持続可能な地域をつくるには世代を超えた協働が不可欠です。次の世代がこの地域で仕事をし、この地域をより良い地域にするという意味と行動がなければ、今の大人がいくら頑張っても、持続可能な地域も地方創生も実現できません。その意味で学校教育とも連携して子どもたちに地域課題解決の主体者として関わってもらする必要があります。

小学校で令和2年から、中学校で令和3年から全面実施され、高校では令和4年から順次実施されている現在の学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」が理念として掲げられましたが、社会に開かれた教育課程の実現は学校教育の問題ではなく、地方創生の根幹としてとらえ、地域社会そのものの課題であり、産業界も主体的に関わる必要を感じています。社会に開かれた教育課程の実現のための仕組みとして、学校運営協議会と地域学校協働活動が用意されていますが、まだまだ模索段階だと思います。地域側、産業界側から教育機関と関わるコミュニティを構築し、次世代と共に育ち合う関



係をSDGs、地方創生と絡めながら構築していきたい。これは大学コンソーシアムの機能強化と一体となるものだと思っています。

ここで、先ほど少し触れましたが、学校現場で取り組まれている、社会に開かれた教育課程について、少し説明させていただきます。学校教育は文科省が提示する学習指導要領によって組み立てられていますが、学校教育と地域が関わり

ながら子どもたちを育てることが今の学校教育の方向です。学校の中で教育することから、社会で子どもたちを育てる方向に、大きく舵を切ったと言えます。現在、学校では「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。」という社会に開かれた教育課程を理念に掲げ、学校と地域が協力して子どもたちを育てることに挑戦しています。具体的には、

社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。

これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。

教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

これらを実現するには学校だけでは実現できません。今まで学校の先生は学校で育ち、学校を職場としているため、学校以外の社会と関わることはほとんどありませんでした。このような状況で学校を社会に開きましょうと言われても、どうしてよいかわからないのが現状です。つまり、地域側から積極的に学校と関わるのが不可欠です。特に、「より良い学校教育を通じてより良い社会を創る」という目標を共有するには、より良い社会とはどんな社会か、また、より良い学校とはどんな学校かについて学校と地域が共有していくことが必要であり、自分たちの地域にとってより良い社会とはどんな社会か、また、より良い学校とはどんな学校かを、子どもたちも交えて地域の様々な大人と一緒に話し合うことが必要だと感じています。そこからどんな資質能力が必要かも見えてきて、子どもたち自身の学習意欲にもつながると思います。自分たちの地域を自分たちが関わって、より良いものにしていく。そのために学ぶという経験を踏まえて、子どもたちは生まれ育った地域を自分たちの力でより良いものにしたという自覚ができ、地域の持続可能性と発展が約束されるのではないのでしょうか。

現在岡山県の学校現場では、社会に開かれた教育課程の具体的な取り組みとして、プロジェクトベースドラーニング（課題解決型学習）の推進が進められています。この過程で学校外での体験も取り入れられつつあり、学校と地域との連携しやすい土壌づくりが必要で、県教育委員会と産業界が連携協定を結びました。生徒たちが探究活動を進めるときに企業との出会いを商工会議所等の経済団体がコーディネートするものです。皆様にも積極的に学校との連携をお願いしたいと思います。

これからの教育課程の理念

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。

<社会に開かれた教育課程>

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。**
- ② **これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。**
- ③ **教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。**

【BeLive (ビーライブ)】

ここで高校生のSDGsに関する探究活動をサポートする取り組みとして行っているBeLiveについてお話をさせていただきます。先ほど申し上げたように、現在の学校においては社会に開かれた教育課程に向けて、地域と一緒に子どもたちを育てることや、課題解決型学習を積極的に行っています。またそのテーマとしてSDGsが取り扱われることが増えています。そのような中、子どもたちの学びの場に企業がどのように関わられるかを模索しているのが、BeLiveです。実行委員会を組織して主催となり、岡山経済同友会が共催する形で継続しています。今年が5回目になります。来年の1月に探究活動の発表会を行い審査をするのですが、そこに至るまでの間に、高校生と企業との出会いの場を設けて、高校生の探究活動に対してアドバイス等を行う中で、うまくいけば高校生と企業の協働の探究活動につながればと思っています。

また、高校生が地元企業と出会うことにより、地域企業の魅力を知り、将来は就職先として地元企業を選んでもらうことも目指しています。

実行委員会は中国銀行、山陽新聞社をはじめ、地元企業や教育委員会、大学関係者等で組織し、どのようにすれば高校生の探究活動の役に立てるかを模索しながら、取り組んでいます。運営費は企業協賛を集めて実行しています。なお、事務局は廣野さんの会社をお願いしています。私たちは場を設定するだけですが、参加する高校生、教師、企業の方のディスカッションで多様な学びの場にできていると思います。高校生にとっては企業人から様々なアドバイスを得ることで、探究活動に深みが出ているように思いますし、企業人にとっては自身の高校時代とは全く違う学校の取組や高校生の発想に刺激を受けます。高校生自身が社会課題に関心を持ち、自ら取組テーマを見つけ、真剣に取り組む姿勢から企業のあり方についても考えさせられます。詳細についてはホームページをご覧ください。

【岡山大学PBL CROSS】

このような取り組みを通して、学校も企業と連携することの価値に気づきつつあり、今後このような取り組みが広がっていくことが予想されます。岡山大学でもこの課題解決型学習については大学教員と高校教員との連携でさらに進化させることを考えて、PBLクロスという取り組みをしており、大学も高校生の探究活動の発表・表彰の場を設けています。また、ここへも企業の参加が期待されています。社会の第一線で様々な価値を生み出している企業が子どもたちを育てることに関わることは、子どもたちの社会への関心をより喚起し、教師が社会を知ることにもつながり、企業人にとっても次の世代の問題意識に気づき、採用に向けて企業のあり方を見直すきっかけにもなります。

生徒たちの中には「自分たちの探究活動が単に学校教育の範囲にとどまるのではなく、探究成果を社会に対してメッセージを発信し、社会に実装したい」という思いを語る生徒がいます。このことから、中学生や高校生はすでに社会に対して主体的に関わり、まっとうな意見を言える存在であることを認めることが重要だと思います。私は、行政の様々な審議会等の正式メンバーに生徒たちを入れるべきだと強く思うようになりました。事前に情報を提供し、彼らに仲間と考えてきてもらおうと、しっかりとした意見を言える、また提言もできると思います。



【まとめ】

実は、2016年に倉敷をメイン会場に行った、ローカルサミットで子どもたちからの提言の分科会を設けましたが、そこで彼らから提言されたのは、「大人はきちんと本音を語り、自分の考えを我々子どもに伝えてほしい。私たちは、大人と意見交換する場を協働して創りたい。私たちは、そのための知識・スキルを得る努力をする。大人は、その環境を整えてほしい。このようにして、私たちも自分たちの意見や考えをもって、現実社会に主体的に参画したい。」というものでした。それから、8年が経過しますが、この声に大人がどうこたえるかが問われていると強く思うようになりました。子ども扱いをするのではなく、社会の主体者として対等に生徒たちを向き合うこと、彼らに社会の役割の一端を担わせることが必要だと感じます。

このことは、ロータリーが青少年奉仕を充実させ、青少年に様々な経験をする場、大人と一緒に活動する場を提供し、インターアクトやローターアクトをロータリアンの仲間として認めようという運動にもつながっていると思います。

年齢や過去の経験値で決めつけるのではなく、今の現実をどれだけ真剣に考え、自ら解決を図ろうとしているかの姿勢こそ問われることであり、年功に胡坐をかくことは許されないことだと思います。将来を担う彼らの思い受け止め、具現化に向けてサポートすることが我々世代の責任だと思います。

皆様も、中・高校生、大学生世代と交流、学校との連携をぜひご体験ください。よろしく願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

梶谷俊介氏（岡山RC会員）

1957年生まれ

大阪大学工学部卒・同大学院工学研究科前期課程修了

1989年岡山トヨタ自動車株式会社入社、2001年代表取締役社長に就任

【公職等】

1997年 岡山青年会議所 第47代 理事長

平成13年度（2001年）岡山商工会議所青年部 第6代会長

岡山商工会議所副会頭を務め、現在、岡山経済同友会の代表幹事

その他岡山県教育委員会関係など多くの公職を務めておられます。



プログラム委員長より講師紹介